

平成30年(2018年)12月21日(金曜日)

三島駅前再開発 高層マンションに知事懸念

三島駅前再開発を最大の争点に16日に行われた三島市長選は、推進者の現職豊岡武士氏(75)が3選した。2025年4月の施設完成に向け事務作業は具体的な段階に移る。一方で、各種手続きで認可権を持つ川勝平太知事は計画にある高層マンションに否定的な構えを崩していない。三島市は建物の高さを一定程度下げること

「負けた2人の票の方が多かったことを謙虚に受け止めるべき」

市長選から2日後、18日の定例記者会見で川勝知事は選挙結果を踏まえ、改めて反対姿勢を強調した。選挙は事業の見直しを訴えた新人2氏の合計票が現職票を4千票余り上回った。

事業は南口東街区の1・3 杉にタワー型マンションや商業棟を整備する。「高い建物は伊豆の玄関口にふさわしくない」というのが知事の反対理由で、工事による地下水の枯渇も懸念する。県のトップが意見を示すことで、同様の考えを持つ市民らの運動の原動力にもなっている。

これに対し市側は戸惑いを隠さない。高さ99・5層のマンション規模は法定容積率や建ぺい率の範ちゅうであり、加えて県は17年3月に策定した東駿河湾広域都市計画で三島駅前の土地について高度利用を促進す

理解得る丁寧な説明を

る方針を明記している。地下水保全についても環境調査を実施し、工事の影響は少ないとする科学的な裏付けを得た。施工後に保全策を継続する方策も決めてあり、進め方に瑕疵(かし)はないという認識だ。

とはいえ、事業を進める課程で県は補助金交付や組合設立などで認可権を持ち、知事の意向は無視できない。計画は県の補助金15億円を見込み、市幹部は交付されなければ事業は成り立たない」としている。

ミサワホームを中心とする共同企業体(JV)は採

算性を踏まえ、19年末ごろに建物の高さを公表する予定。手続きは20年の都市計画決定の後、補助金交付申請、組合設立認可などと続いていく。

再開発は20年越しの市の懸案であり、コンセプトの広域健康医療拠点は市民の意見を取り入れた「駅周辺グランドデザイン」が基礎となっている。豊岡氏はこうした経緯も計画が妥当であるとする根拠に挙げるが、いずれにしても知事や反対市民の理解を得るには丁寧な説明が必要となる。(三島支局・河村英之)



2025年の施設完成に向け事務手続きが始まる再開発予定地
=19日、三島駅前